

2009年に活動を始めた六本木天文クラブ(https://tcv.roppongihills.com/jp/tenmon/)は、今年で10周年を迎えました。定期的に実施している屋上スカイデッキでの星空観望会と泉水朋寛さんを講師に迎えての星空セミナーに加え、星空案内人養成講座や不定期に行われる講演会・ワークショップなど、さまざまな活動に取り組んできました。星ナビ読者の皆さんも含め、これまでに参加していただいた皆さまに御礼申し上げます!

ふつう、星空を愛する皆さんが考える 素敵な星空とは、人里離れた場所で出 会う降るような星空でしょう。そのような 意味では、東京のど真ん中にある六本木 から見上げる星空は、まったくもって落 第です。しかし、数百万の人が暮らす東 京の街を眼下に、その上に広がる星空 を眺められることにも価値を認められる のであれば、こんなステキな場所はあり ません。その価値を脇から囁いて、そう

2009年に始まった六本木天文クラブも、今年で10周年を迎えます。それを記念してのトークイベントを実施してきました!

高梨直紘 (東京大学) / 平松正顕 (国立天文台)

かなあ?そんな気もする!と思わせるのが私たちの役割でした。その企みはある程度成功したからこそ10年目を迎えられたのだと考えると、なかなか感慨深いものです。

9月下旬に六本木ヒルズにあるアカデ ミーヒルズを会場に行われた10周年記 念イベントでも、六本木天文クラブが追 究してきた新しい価値を言語化すること に挑みました。メインの対談セッション では本誌でもお馴染みの国立天文台の 渡部潤一さんと社会システムズ・アーキ テクトの横山禎徳さんが登壇されました。 横山さんは世界的なコンサルティング・ ファームであるマッキンゼー・アンド・カ ンパニーの東京支社長を務め、ビジネ スの世界に精通する大立て者。天文学と は縁遠い世界で活躍される方ですが、そ んな横山さんから「天文学はもちろん(!) ビジネスには役立たない、しかし、人間 の際限のない欲望に知的な刺激を与え



当日は250名の方にご参加いただきました。晴れなかったのだけが残念!

続ける存在として天文学には価値があるのだ」といった話が出てきたことには、たいへん勇気づけられました。宇宙を知ることは、本質的に人間に必要なことである。そのようなことを、ふだんは天文学から遠いところで活躍されている方がおっしゃったことに意味があるのです。六本木という場所で、人々と天文学が交わる場所を育ててきて10年。その価値を、六本木からどのように社会へ広げて行くか。それを次の10年間の課題として頑張りたいと思います。